

地域づくり2年目を迎えた活動団体紹介



地域資源の保全と子どもの登下校の見守り
吉岡地区にある町指定史跡「吉岡巨石塚」の保全と子どもの登下校の見守りを行うために結成された「吉岡巨石塚保全グループ」
昨年は、巨石を押し上げる危険がある大木を伐採、周囲の草刈などにより保全を行いました。
今年、吉岡地区の雄熊山の頂上付近にある烽火台跡の整備と案内版の設置を行い、会員が協力し合い地域の資源を多くの人に見てもらえるようにと頑張っています。

1 **吉岡巨石塚保全グループ**
代表 矢岡 勝見 TEL 72-20848
18名



町の歴史を「こっけマン」と一緒に伝えます
町の歴史を多くの子どもたちに伝えようと、文化財にまつわる物語を絵本にしようと考え、地域づくり活動を行う「絵本製作委員会」
昨年は松尾山の物語を絵本にした「松尾山とお葉師さま」の下絵本を完成させ、今年、絵本製作にとりかかります。絵本のナビゲーターを務める「こっけマン」は町章をもとに作られたゆるキャラ、子どもたちが興味を持ち分りやすく歴史を学べるように会員の方々の工夫がたくさん詰まっています。

2 **絵本製作委員会**
代表 東みどり TEL 72-20888
7名



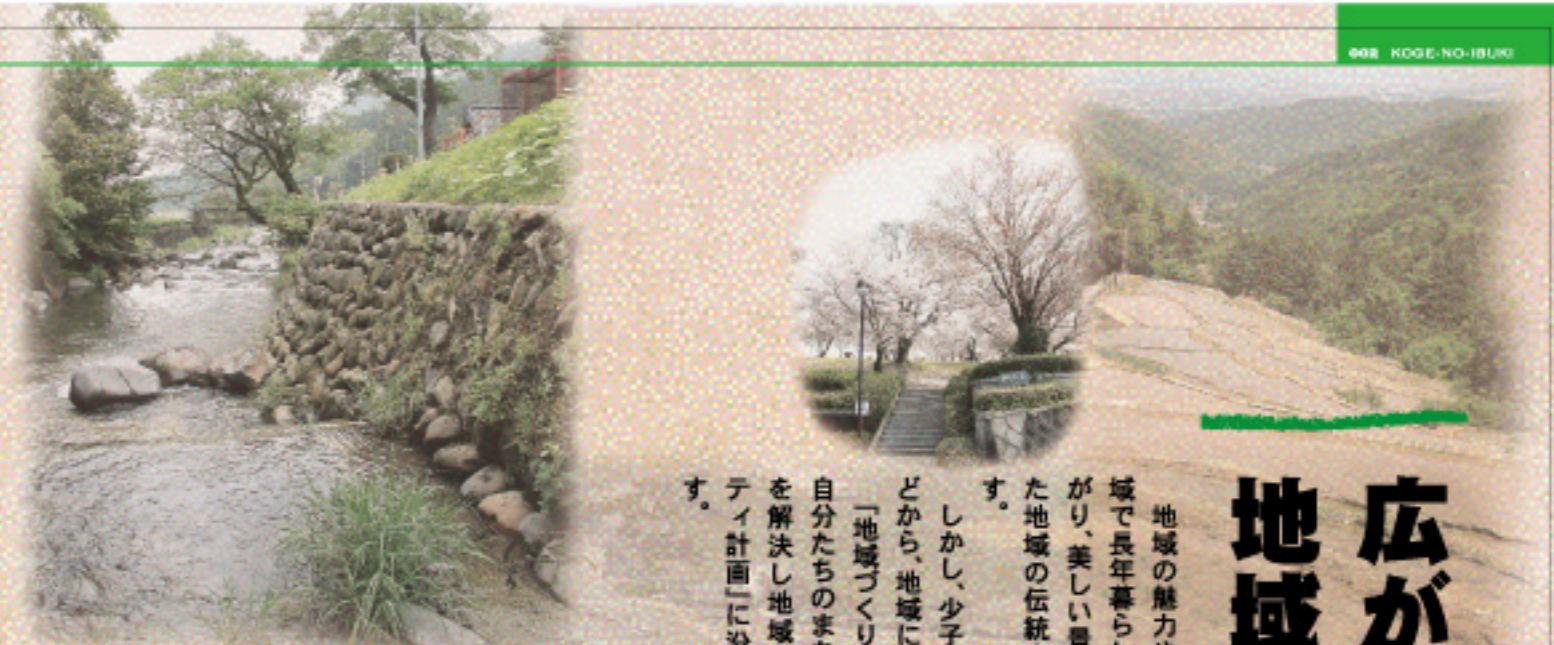
子どもたちの安全確保に取り組んでいます
西吉富小学校の子どもたちが安全に下校できるように見回り活動を実施しようと考え、子どもを守る「パトロール隊」
活動を始めた当初は子どもたちも会員の皆さんのことを警戒していたようですが、パトロール隊の大きなたすきを身に付けて、毎日子どもたちに声を掛けることで、今では子どもから話しかけてくれるようになってきました。
今年も、不審者や不審車が通学路にいないか目を光らせ、子どもたちの安全確保に取り組んでいます。

3 **子どもを守るパトロール隊**
代表 横川 洋子 TEL 72-4300
5名



自然環境の保全で地域づくり
東上1区の皆さんが長年管理している岩屋の滝公園、三田ダム公園の清掃作業に、地域の貴重な資源である岩屋の滝の保全を活動に加えた「東上1区自治会地域づくり」
昨年は滝つぼに流れ込んでいた大木を取り除く作業を行い、地域で力強い滝が本来の美しい姿を取り戻しました。
少子高齢化による人手不足を感じているものの、ほたる鑑賞会などの事業にも熱心に取り組んでいます。

4 **東上1区自治会地域づくり**
代表 三田 実 TEL 72-4309
27名



広がり始めた地域づくり活動

地域の魅力や課題を一番良く知っている人、それは地域で長年暮らしてきた町民1人ひとりです。人とのつながり、美しい景観、魚が暮らす澄んだ川、受け継がれてきた地域の伝統文化などの魅力を大切に守り続けています。
しかし、少子高齢化による人口減少、生活環境の変化などから、地域によっては新しい問題も生まれています。「地域づくり活動」は、町民の皆さんが自分たちの力で、自分たちのまちや地域を残していくために、地域の課題を解決し地域の魅力を上手に活かす方法を「コミュニティ計画」に沿って行い、地域を元気にしていくものです。

1 Step **第1次上毛町総合計画**
(平成18年度策定)
住民との協働のまちづくりを基盤に、子育て環境の整備、農林業・商工業の再生、環境保全、高齢者福祉の充実、生活安全対策など、まちづくりの基本を示しています。

2 Step **上毛町コミュニティ計画**
(平成19年度策定)
合併後、合理的な行政が進む一方で見落とされがちな旧村や地域などのきめ細やかな視点を大切にすため、身近な生活舞台の主役である町民の皆さんが中心となって地域の課題や魅力を解決・活用する方法を、南吉富・西吉富・高原・友枝の4地区ごとに考えて、計画書を作りました。

3 Step **上毛町地域づくり活動事業**
(平成20年度～)
地域づくり広報紙「上毛のいぶき」では、今後地域づくりの様子を町民の皆さんに紹介し、活動の輪が広がることを願って、年4回発行していきます。
地域づくり活動事業
「地域づくり活動事業」は、町はこの計画に沿って活動する5人以上のグループを募集して活動費の補助、活動情報の発信等の支援を行っています。現在、新たに認定された5グループを含む、23グループが各地域で今年度の活動の第一歩を踏み出しています。
地域づくり広報紙「上毛のいぶき」では、今後地域づくりの様子を町民の皆さんに紹介し、活動の輪が広がることを願って、年4回発行していきます。



コミュニティ計画には88通りの計画があり、地域を元気にするため



地域づくり2年目を迎えた活動団体紹介

5 ネットワーク友枝

代表 尾形 忍

TEL 72-40205

34名

友枝地区の交流と一体化から
始めています

土佐井、東下、東上、西友枝4地区が力を合わせて交流と一体化を図りながら、住みよい地域を目指し立ち上がった「ネットワーク友枝」

昨年は地域づくりの先進地を訪れ勉強を行うなど向上心溢れるグループです。「新聞発行チーム」と「まちあるきチーム」に分かれて活動を進め、「友枝わくわく瓦版」の発行と「まちあるき」土佐井の史跡を訪ねてくを見事成功させました。

今年は「楽しくゆつくり」をモットーに他グループとの連携を図るほか、大入く岩屋間の九州自然歩道を活用したまちあるきを計画中です。楽しくふれあいのある企画になるように頑張っています。



6 百六壮年会

代表 百留 隆男

TEL 26-12267

26名

町指定文化財、百留横穴墓群の整備
美化活動

地域の連携意識の再生のために、百留地区唯一の町指定文化財の「百留横穴墓群」の整備美化活動を中心に活動する「百六壮年会」

昨年はお盆の3日間、百留横穴墓群の前に先祖を弔う提灯を飾り幻想的な風景をつくりだし、地域再生の一步を踏み出しました。

今年も引き続き、活動を継続し景観をより良くするために花木の植樹や老朽化したぶどう小屋の解体を計画しています。お盆には提灯の点灯に加え新たに盆踊りも計画しており、取り組みを通じて確実に町民の連帯感が生まれています。



7 吉岡交流会

代表 矢岡 由美子

TEL 72-26548

8名

子どもや高齢者と一緒に
交流できる場をつくりたい

地域住民の交流拠点である公民館を活用して、子どもから高齢者までが交流できる場を提供したいと立ち上がった女性グループの「吉岡交流会」

昨年は、月ごとの企画担当者を決めて、押し花や流しソーメンによる子ども会との交流や忠臣蔵の話を神官さんに遺品を使って説明してもらった敬老会との交流など、毎月楽しい交流会を開催しました。

今年も、2ヶ月に1回のペースで交流会を企画するほか、会員自身がレベルアップするため健康栄養研修に参加し高齢者を対象とした体操を習得して、講師を呼ばなくても自分たちで地域の人たちに健康体操を教えられるようにと頑張っています。



8 安雲西交流会

代表 安元 輝己

TEL 72-34900

34名

地域の子どもから高齢者までが
交流できるように

地域づくりに大切な、人と人との交流を深めることから始めようと活動をスタートした「安雲西交流会」

登校時の子どもたちの見送り活動やゲートポールを通じた3世代交流、プランターに花を植えて地域に設置する花いっぱい運動など、地域の子どもから高齢者までが交流できるように工夫を凝らしています。活動の内容は毎月回覧板で報告され、意見や感想を書き込めるようにして、地域の情報や課題を区民で共有できる仕組みを作っています。

9 築上東 Music Lovers
果庵コンサートプロジェクト

代表 貴村 和恵

TEL 72-2178

22名

音楽活動を通じて
地域の交流の場を提供

音楽活動を通じて地域の交流の場を提供したいと、東上小学校講堂を活動拠点として地域づくり活動を行う「築上東 Music Lovers」果庵コンサートプロジェクト

昨年は講堂の改修工事のため、中央公民館支館で開催した果庵コンサートは、メンバー以外の住民の方に声を掛けて、ポスター作成やチラシ配布などの準備から本番当日の司会や裏方までを共同で作業しました。コンサートには多くの方が訪れ、参加した方との合唱もあり手作りコンサートは大成功を収めました。

今年も、新しくなった東上集会所(東上小学校講堂)に拠点を戻し、地域と協力しながら活動を続けます。



10 よらんかい

代表 尾北 英敏

TEL 24-9414

30名

新たに若手ボランティアの育成を
テーマに掲げ、地域づくり活動

町内で開催される各種イベントやお祭り、福祉施設の除草作業などのお手伝いと若手ボランティアの育成を行う「よらんかい」

昨年は、友枝地区を中心に地域づくり団体のイベントの支援をするなど活動範囲を広げました。また、20代の若者会員も加わりボランティア精神も広まってきました。

今年も、町内全地区で活動する地域づくり団体の各種イベントのお手伝いを引き受けますと意気込んでおり、各団体にとって心強い存在となっています。



地域づくり2年目を迎えた活動団体紹介

11 上毛町文化財ガイドブック作成委員会

代表 宮本 工 TEL 24-9430

町の歴史を後世に伝承

町の各地域には数多くの文化財が潜在していますが知る機会が少なく、そのため町の歴史を後世に伝承したいとの思いから活動を開始した「上毛町文化財ガイドブック作成委員会」子どもでも気軽に読めるガイドブックの作成を第一目標に、メンバーが手分けをして300枚を超える写真撮影しました。

今年は原稿をまとめて製本を行い、各小学校等への配布を予定しています。将来的には文化財ボランティアガイドの養成へとつなげていきたいとメンバーが一丸となって活動に取り組んでいます。



12 土佐井 トンクローズ

代表 源田 友彦 TEL 72-4616

「友枝川ふれあいの里づくり」を進めています

友枝川農村公園周辺(たいへいの里横の友枝川沿い)を町内外の方々の憩いの場になるように「友枝川ふれあいの里づくり」を進めている「土佐井 トンクローズ」

昨年は町内外の方々から木の植樹の協賛を募り、友枝川両岸と農村公園に合計105本の木を植樹しました。また、地元お祭り保存会や町内子ども神楽の競演など地域住民の力で盛大な植樹祭も開催しました。今年も、植樹した木の手入れと花植え活動に加え桜祭りを企画し、豊かな水辺環境を多くの方々にご利用してもらえるように活動をしています。



13 西吉富小学校 PTA安全委員会

代表 粉 祐子 TEL 72-6012

子どもたちの安全を守ります

子どもたちの安全を守るために、まず親が率先して防犯パトロールを始めようとPTAの役員が中心となって活動を開始した「西吉富小学校PTA安全委員会」

安全委員会では、全保護者の車両に「防犯パトロール中」サンバイザーを取り付けて「西吉富守り隊」と名付けて、校区内の子どもの安全を地域の方々と連携しながら行っています。今年からは、下校時間などの情報を「防犯メール」として保護者に配信し、より一層子どもたちの安全を守ります。



14 白虎

代表 山下 貴史 TEL 72-23340

スポーツを通じたまちづくりを目指す若手グループ

スポーツを通じて多くの人が集まり、たくさんの方がつながりあえるまちづくりを目指す活動を行う若手グループの「白虎」昨年は、以前から行っていた男女混合の6人制バレーボール大会に加え、小学生を対象としたアスレチック競技「忍人」を開催し、手作りで作られた障害物コースを子どもたちが一生懸命クリアして順位を競い合いました。参加者には町の観光情報や特産品の景品を準備して町を宣伝する工夫も凝らしています。

今年も、取り組みを多くの人に知ってもらえるように広報活動を充実させて、活動メンバーの増加やイベント参加者の増加を図っていくと意気込んでいます。若手の力に期待！



15 上毛好き好き あじさいチーム

代表 井上 ひろ子 TEL 24-9426

やすらぎの提供と地域の交流

上唐原の楳屋地区の道沿いにあじさいを植えて、美しい景観づくりによるやすらぎの提供と、共同作業を通じて地域の交流が芽生えるようにと立ち上がった女性グループの「上毛好き好き あじさいチーム」

昨年は色とりどりのあじさいを約210mに渡り植栽しました。植栽時には地域の方に回覧板で呼びかけをしたところ、中学生や高校生も手伝ってくれて、少しずつ地域の交流が芽生えたことに喜びを感じました。

今年も、あじさいの植栽と草刈、剪定等の手入れを続けることで少しずつ地域のつながりを深めていきます。



16 うばげら

代表 秀南 京一 TEL 72-2604

谷山川の保全活動から地域活動へ

東下村地区を流れる谷山川の保全活動から、みんなで楽しく行える地域活動へと輪を広げていこうと活動を開始した「うばげら」

昨年は、雑草の生い茂った谷山川の除草作業と川沿いの空地の整地作業等を行い、見事にきれいな川へと生まれ変わりました。活動を通じてメンバーとのコミュニケーションが活発になり新しい取り組みの企画話に盛り上がりました。

今年も、川の環境保全に加え6月にほたる鑑賞会を実施し、今後はクリスマスイルミネーションや子どもたちと一緒にリース作りにもチャレンジする予定です。



17 松尾山修験道 回峰行実行委員会

代表 福本 利三 TEL 72-4080

「松尾山」と「お田植祭」の広報活動

「松尾山」と「お田植祭」を町内外の方々に知ってもらうために、松尾山から英彦山までの山岳ルート約30kmを歩く「修験道トレッキング」を企画して、広報活動を行う「松尾山修験道回峰行実行委員会」

昨年11月に開催されたこのイベントには41人が参加し、遠くは大野城市、北九州市からの参加がありました。各新聞社の取材やNHKニュースでも放送され、このイベントによる松尾山のお田植祭の広報効果は非常に大きかったようです。

今年も、初日に英彦山の山頂まで登頂し英彦山青年の家に宿泊後、英彦山から松尾山まで歩くコースを企画し準備を始めています。



18 オオイげんき会

代表 笹尾 忠義 TEL 72-23361

高齢者と子どもをつなぐ福祉ボランティア

安曇地区の高齢者外出支援と子どもの安全パトロールや交流活動を行う「オオイげんき会」

昨年は、小学生とのふれあいを重視した自転車による巡回を開始し、巡回時には空襲防止にも目配りをしました。また、小学生との交流としてソバ打ち体験や昔の遊びとして竹馬を教えるなど世代を越えた交流が生まれています。

今年も、高齢者と子どもをつなぐ福祉ボランティアをテーマに地域に密着した活動を続け、高齢者が満足して生活できる環境づくりとボランティア精神を行動で示すことで子どもたちに伝えていくそうです。

